

令和3年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修
就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修

就労支援を通じた地域づくりについて

(一社) 釧路社会的企業創造協議会代表理事
釧路市・釧路管内生活相談支援センター暮らしごとセンター長

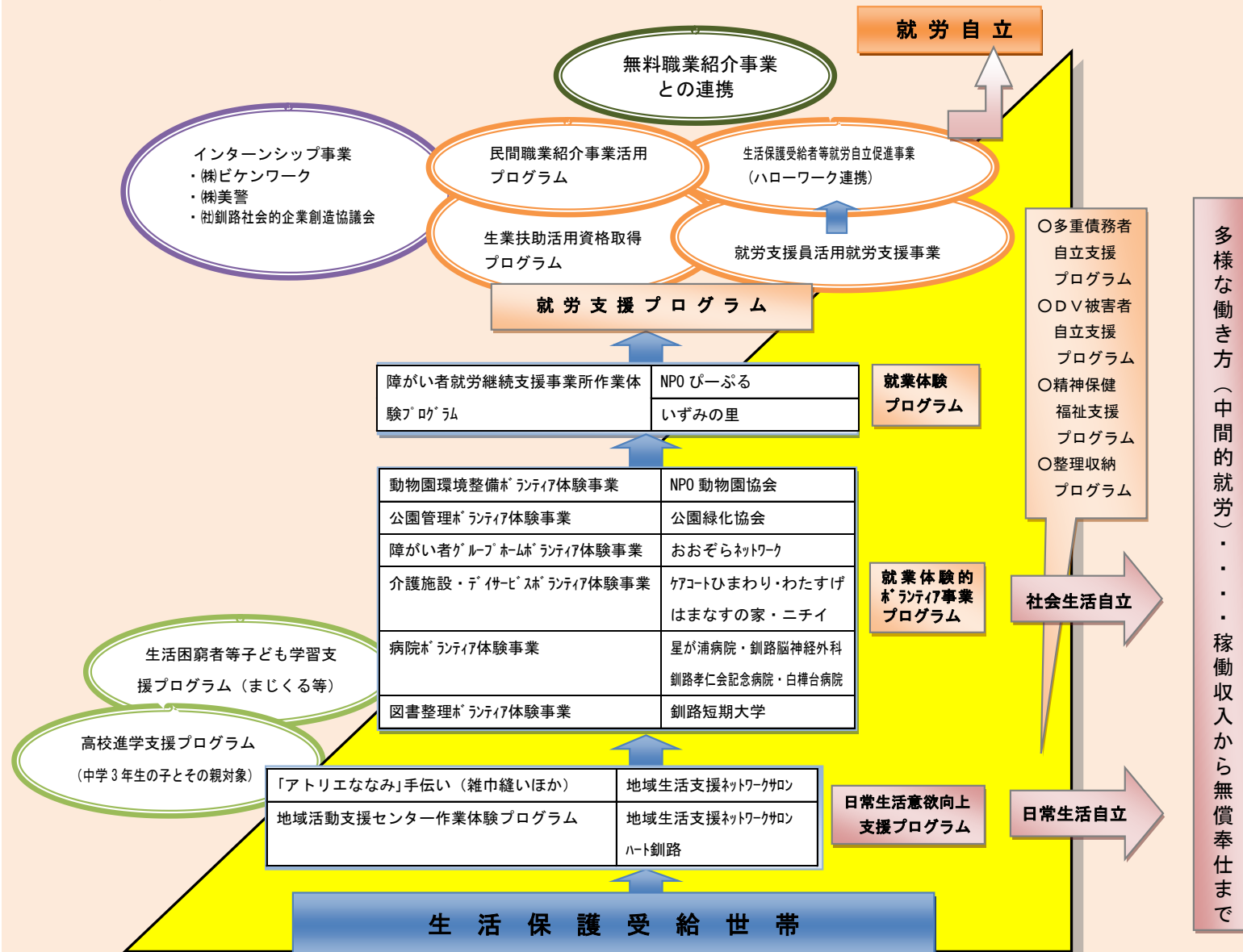
櫛部 武俊

**2004年生活保護世帯自立支援
釧路モデルの取り組みから18年余
になった⇒2020年の到達点**

**就労支援を通じた地域づくりはどこ
までできたのか？**

現在の自立支援プログラムとその実績

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況（H31年4月現在）





自立支援プログラム～自立支援プログラムのススメ～



オッチャンたちの誇り



【支援】
ケースワーカー・
民生委員・パーソ
ナルサポーター
など

【支援】
地域・事業所・
関係機関
など

社会生活自立



就労自立



かけがえのない私と
居場所づくり (ハブ)

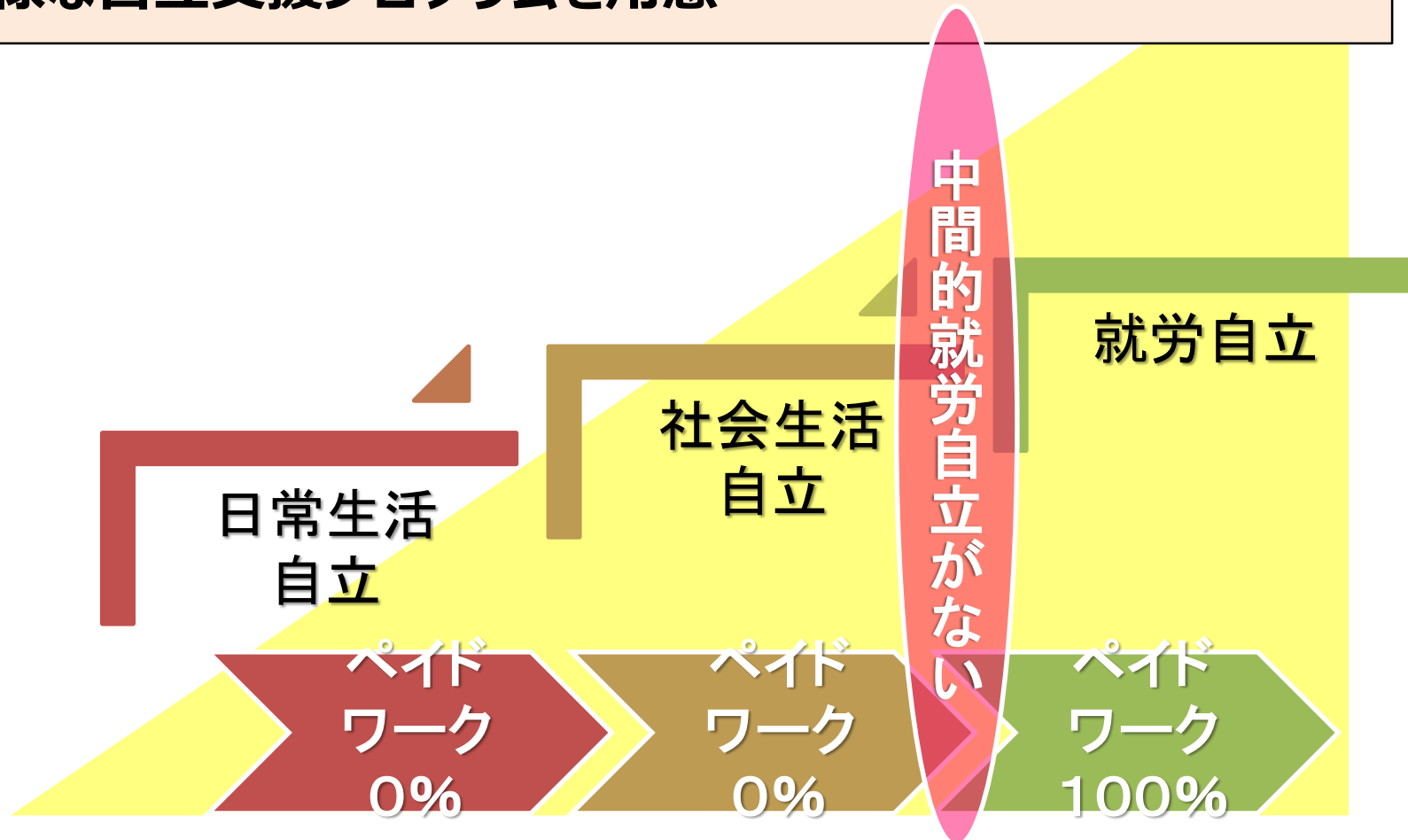
日常生活自立



新しいケアの試み

釧路モデルの分析

ただちに就労困難、あるいはケースワークだけでは就労困難な生活保護受給者を対象にご本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用意



漁網の仕立て作業・・支え合う通い場



生活保護受給者が漁 生産品の多様化に向け 網作りで経済的な自立 一歩になる」と作 業を目指す鉚路市の事業

参加者たちが31日、 網路フイッシャマン スワフMOO内に市 の遊具の取納場所を任 げ今春、開設予定の津 波遊離施設兼体育館内 に張るネットを加工し 保護受給者向け事業を 受託する鉚路社会的企 業創設協議会が市内の

体育館内に設置するネット を加工する就労支援事業への参加者ら

自立の道広げる 体育館ネット

鉚路市の生活保護者支援事業 漁網以外の製作は初

ビルに設けた作業スペースに約10人集まり、長さ約16m、幅約3mの既製のネット2枚を、設置場所に合うサイズへと切断した。協議会では、担い手が不足している漁網作り、本年度から本格的に取り組んでいる。参加者は技術を高めながら収入を得ている。整備を進める市が、普段、網を扱っているノウハウを生かしてもらおうと、発注された。漁網作りを手ほどきしている山本教網(厚岸町)の山本輔社長は「これが、今までになかった作業を受けるきっかけになれば」と期待する。MOOの遊離施設兼体育館は、2012年に廃止された屋内プールを改修し、4月上旬にオープンする見通し。(木津谷学)

座面張りカラマツ材と漁網を使ったパイプイスの試作。座面の張り方は生活保護受給者の自立支援事業として行っている

カラマツ材と漁網でイス

鉚路市は、遊離カラマツ材を網を使って作り出すパイプイスを開発した。背もたれにカラマツ材を加工し、座面に漁網を張り、パイプイスの完成品は、生活保護受給者の自立支援事業として行っている。パイプイスは、4月に日通フイッシャマンスワフMOO内に設置する。パイプイスは、多目的アリーナに設置する。

鉚路市が開発

座面張りとは生活保護自立支援事業

150脚 MOO多目的アリーナに

パイプイスは、遊離カラマツ材を網を使って作り出すパイプイスを開発した。背もたれにカラマツ材を加工し、座面に漁網を張り、パイプイスの完成品は、生活保護受給者の自立支援事業として行っている。パイプイスは、4月に日通フイッシャマンスワフMOO内に設置する。パイプイスは、多目的アリーナに設置する。

地域で支えられていた人が

支える人に回る仕組みを構築

生活困窮者支援を通じた地域づくり

- ・ 漁業は、釧路市・厚岸町の基幹産業であるが、その下支えをしている漁網業界の現場（整網作業）で高齢化が進み、担い手不足により業界の存続が危惧されている。
- ・ 整網作業は、機械化するのが困難であり、今後も手作業に頼るしかないのが現状である。
- ・ 新たな担い手が生まれえない大きな要因は、作業の習熟度が上がらないと、一定の収入が得られないことにある。
- ・ そこで、本協議会の取り組む中間的就労自立の場として、整網作業に取り組み、同時に問題解決を図るのが狙いである。

自立支援プログラム・社会的居場所からわかったこと

☆ 入り口である「断らない相談」と出口である「地域づくり」の結節点(節)は『参加支援＝社会参加の場づくり』である。

☆ それは、居場所であり(活発的・非活発的)・自尊心回復の場・承認の場である。

それは多様な地域資源がつながる中で支えられるもの⇒それ自身が地域の力(人がつながる)となる

旧音別町の就労・就農支援と暮らしの課題

- ◆人口減 2005年平成の大合併で釧路市に人口2,756人⇒2020年10月末1,675人に・・・歩いている人を見たことない
- ◆中心から周辺化し議員ゼロ、限界集落化
- ◆基幹産業は酪農・林業・・・酪農ヘルパーはベトナム人、大企業の林業でパルプへ・・・隙間産業はない
- ◆2村になる自生落・秋田落が枯渇
- ◆営農を辞める酪農家たち
生活困窮し点在する住民の孤立化防止。この地に根ざす取り組み
- ◆音別部会立ち上げ・・・
 - ・自己肯定感の回復中間的就労を通じた稼ぐ・つながる仕組みで地域の希望を生み出す



2017年中間的就労モデル（一社）音別ふき落団

農業×福祉の連携による新しい地方創生
「音別ふき落団」の活動ご紹介



音別ふき落団

出身も年齢も立場も違う多様な人がひとつに繋がる

地域の資源「蕨」を通して、街が有名になり、誰もが自信を持って暮らせる街に。
ふき栽培～商品化で誇りと居場所を取り戻し、持続可能な暮らしを実現する。
農業と福祉と音楽で地域にお金を生み循環させる、日本で初めての取り組みです。
地域の人たちが紡いだビジョンで行政、企業、地銀、東京のビジネスマン・クリエイター、
小学生～シニア世代までが繋がり活動しています。



人、広い空、緑、ふきの葉っぱ



ビジョン

「ふきで音別町が有名になり、
若い人から年配の方まで
どんな人も自信を持って
イキイキと暮らせる。」

2017年3月28日

**社会的価値が高い取り組みに賛同し
いろいろな人が協働している状態。**

**生産から、「商品開発・販売」のフェーズへ
もう一度、目的を確認して、
新たな関係性を構築していく必要性。**

音別ふき落団と協働する団体（開発・販売） ※仮説で入れている箇所もあります









付加価値向上





音別

心き

露団

パッケージ (2種) 案

○佃煮 (A5 サイズ 148×210mm ぐらいの大きさ想定)

○ピクルス



同一



多少のズレ・傾きなどは、スルー。
→それも含めてデザインに



商品づくりの運用ポイント

人と人の関係性や取り組みそのものが
ふき露団の看板である。



障害のある方がシールを貼ることで
多様な不揃いの商品になる。

世界に一つだけの商品

商品の付加価値を高めることができる。

ロゴに込めた思い

ただの「ふき」ではない。
社会的な価値がある取り組みであり、
地域の人たちの取り組みを昇華しており
そのあり方そのものを売るといふもの。

厚生労働省 平成30年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業
「地域共生社会の実現に資する中間的就労の多面的機能とあり方に関する調査研究事業」

地域共生社会実現のための 中間的就労の すすめ

多面的
機能を
活かす

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会



平成30年度厚生労働白書と地方の論理

第1部 障害や病気など向き合い、全ての人が活躍できる社会に

2 中間的就労自立の考え方
 釧路社会的企業創造協議会（以下「協議会」という。）は、北海道釧路総合振興局と釧路市から委託を受けて自立相談支援事業や就労準備支援事業などを実施する一般社団法人である。協議会は、生活保護受給者だけでなく生活困窮者を含む雇用創出を目的として、2012（平成24）年に設立された。

協議会は、発足時に、これまでの「釧路モデル」の検証を行った。検証では、地場産業の停滞により地域の求人情報が少なく、生活保護受給者や生活困窮者の一般就労が困難である状況を踏まえ、賃金の多寡だけで見ず、地域社会のニーズを掘り起こしていくことが重要とされた。そして、自立支援プログラムにより、「社会生活自立（0%のペイドワーク）」から「就労自立（100%のペイドワーク）」にすぐ移行するのは難しいことから、「就労自立」に向けた「中間的就労自立（1～99%のペイドワーク）」の場を、地域のニーズに沿いながら提供することが必要とされた（図表3-1-9）。

第3章 障害や病気等を有する者などを受ける場場の取組み事例

図表3-1-9 中間的就労自立の場の創出

釧路モデルの分析
 本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用いる

今後 目指していくこと
 中間的就労自立の場の創出
 直ちに一般就労を目指すことが困難な人に対して、社会的な自立に向けたサポートをする仕組みを創出した「中間的就労自立（ペイドワーク）」の場などを創出し提供していく。

3 中間的就労自立の取組み
 中間的就労自立の取組みとしては、漁網の整網作業や、健康づくり運動「ふまねっと」に使用するネットの製作などがある。

漁網の整網は、釧路管内の基幹産業たる水産業からの需要があり、漁網業界が高齢化による担い手不足であったことから、生活困窮者と漁網業界双方が抱える課題を同時に解決するために行うこととした。

作業内容については、指示書に則り、網にアバ棚（浮き付ロープ）と下棚（重りとなる鉛入りのロープ）をアバリという専用の道具を使用して括り付ける仕立て作業が中心である。新規の参加者は、まずは参加者の中でリーダー的な役目を果たす「ボランティアリーダー」や、作業に慣れている参加者から作業工程を教わり、練習用の網で訓練する。そして、利

平成30年度 厚生労働白書 195

小磯修二 Shuji Koiso

地方の論理

地方に身を置くことで、中央にはない視点や発想が生まれてくる!

北海道発、地域活性化のヒントが満載

岩波新書

切り拓いてきた中間的就労の場づくりは社会参加の中心に位置する。

この中間的就労は地域共生社会における産業の在り方、コミュニティーに就労することに通底する。

中間的就労は人口減等、地方創生、地方分散型社会を支える可能性として考えていく（農福連携はその端緒）。

個別支援の就労支援・準備支援はこうした個人の自尊心、地域の自尊心の道程に位置づけたい